

# 横浜市インフルエンザ流行情報 5号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

## 《トピックス》

定点あたり 40.0 を超える流行が継続しています。

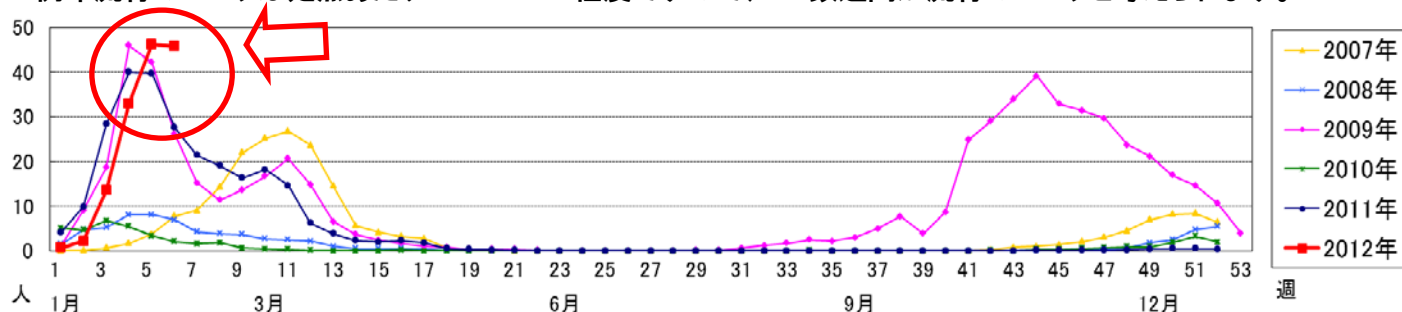
### 【概況】

第6週(2月6日～2月12日)に定点<sup>※1</sup>あたり45.73となり、高い流行が継続しています。例年のパターンから考えると、ここ数週間が流行のピークになると思われます。迅速キットの結果では、徐々にB型が増加しており、今後はB型の流行にも注意が必要です。インフルエンザの予防では、予防接種をしても安心せず、手洗い、うがいを心がけ、人混みを避け、規則正しく生活するなどの健康管理が大切です。もしインフルエンザに罹った場合は、水分補給を心がけ、医師から処方された薬は症状が出なくても最後まで飲みましょう。意識がもうろうとなった時は重症化のサインなので、すぐに医療機関を受診<sup>※2</sup>しましょう。

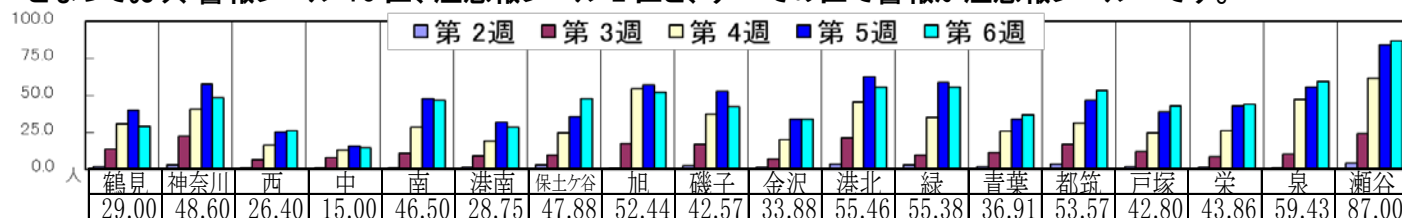
※1 定点: 定点とは、受診したインフルエンザ患者数を毎週報告してくれる医療機関のことです。市内には152の定点があり、そこから報告のあった患者数を定点数で割ると、定点あたりの数になります。

※2 インフルエンザ予防チラシ <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/pdf/infulchirasi.pdf>

1 市内流行状況: 第6週に定点あたり45.73となり、第5週の46.26から引き続き高い流行が継続しています。例年流行のピークは定点あたり40.0～50.0程度ですので、ここ数週間が流行のピークと考えられます。

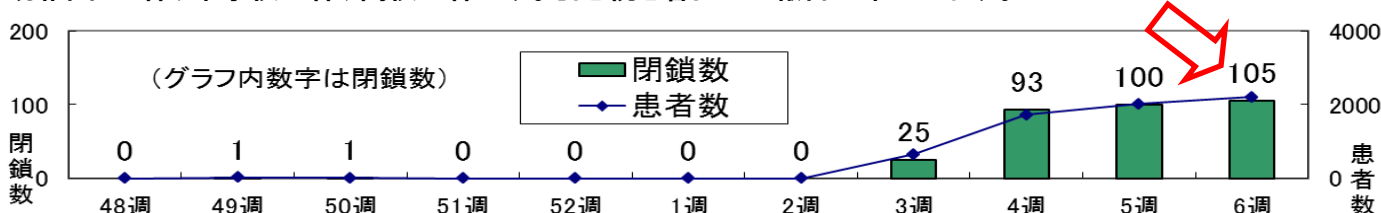


2 区別流行状況: 最も多い区は瀬谷区 87.00で、次に泉区 59.43、港北区 55.46、緑区 55.38、都筑区 53.57などとなっており、警報レベル16区、注意報レベル2区と、すべての区で警報が注意報レベル<sup>※3</sup>です。

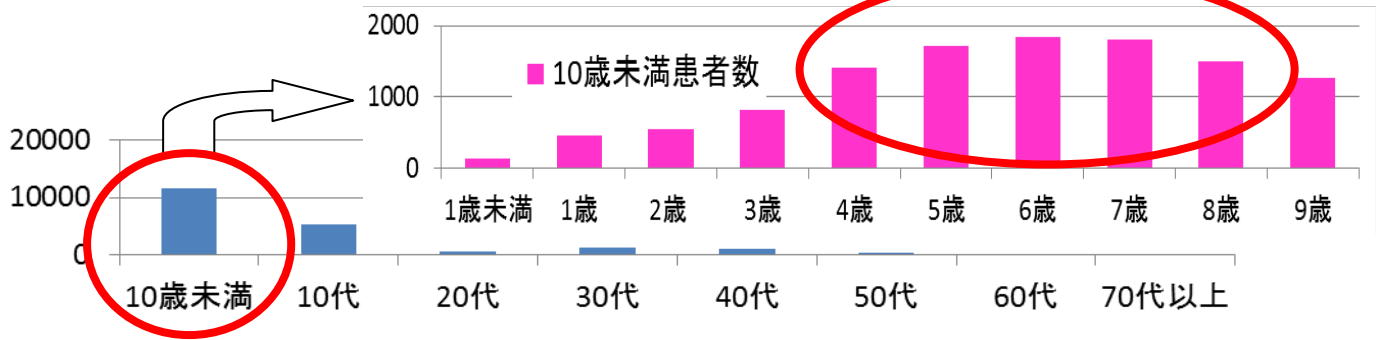


※3 警報レベルは、一度定点あたり30.00を超えると、10.00を下回るまで解除されません。

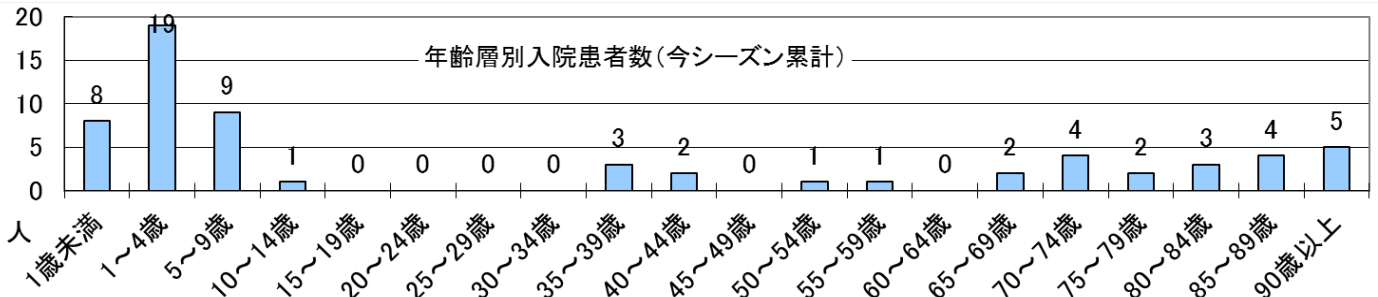
3 市内学級閉鎖等状況: 第6週105件と、高い状況が継続しています。施設種別では多い順に、小学校73件、幼稚園24件、中学校4件、高校4件です。引き続き各区から報告が来ています。



4 年齢層別集計:第2週から第6週までの直近5週間の累計では、今までの傾向と同様に10歳未満の患者が最も多く、その内訳では4~8歳で多くなっていました。

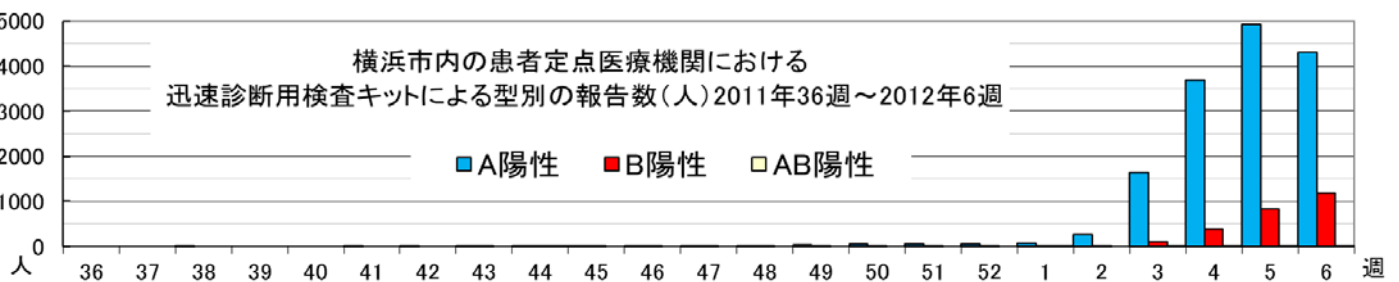


5 入院サーベランス:市内基幹定点<sup>※4</sup>医療機関における、インフルエンザの入院患者の集計です。入院患者数は徐々に増加中であり、年齢別では10歳未満が多くなっています。

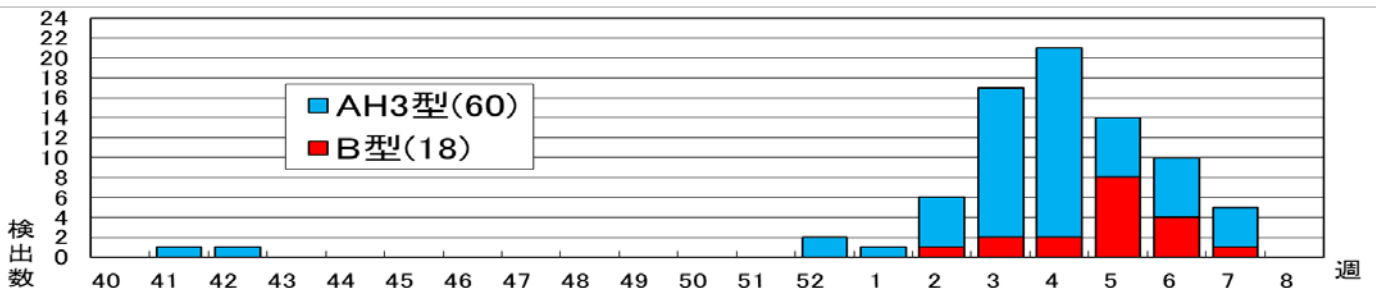


※4 基幹定点:基幹定点とは、患者を300人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には3つの基幹定点があります。

6 迅速キット結果:医療機関での迅速キット結果の集計では依然としてA型がほとんどですが、徐々にB型が増加しています。



7 病原体検出状況:患者さんの検体を横浜市衛生研究所で検査したところ、インフルエンザウイルスが78件検出されましたが、その種類はAH3型60件(76.9%)、B型18件(23.1%)でした。今シーズンはAH3型主体の流行ですが、第2週目以降B型も検出されています。



【お問い合わせ先】 横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045 (671) 2463  
 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045 (754) 9816  
 同 検査研究課ウイルス担当 TEL 045 (754) 9804